

寅さん歩 その23

東京の博物館めぐりー29

江東区ー1



平野 武宏

今回は江東区の博物館めぐりです。区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等を総称します)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。各博物館の詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。

入場料の記載なしは無料です。最寄り駅は代表例と出口です。

写真右上は東京都指定名勝の「清澄庭園」です。全国各地から収集した名石を配した庭を持つ、岩崎家三代が築いた明治の代表的「回遊式林泉庭園」です。

バーチャルウォーク「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

〔深川江戸資料館〕 江東区白河 1-3-28 最寄駅 大江戸線 清澄白河駅A3

地上に出て、「清澄庭園」を右側に見て、清澄通りを左に進み、深川江戸資料館入口の信号を左折すると「深川江戸資料館」(写真下左)です。江東区が小劇場とレクホールを備えた文化施設として1996年(昭和61年)に開設しました。入って右では名誉区民の第48代横綱 大鵬頭彰コーナー(写真下右)を開催(無料)。大鵬の相撲部屋の大鵬道場(現在の大嶽部屋)は万年橋の近くにあります。



深川江戸博物館は入って左にあり、有料です。「歴史資料館三館」(深川江戸資料館、芭蕉記念館、中川船番所資料館)共通入館券大人500円(最初の利用日から1年間有効で300円お得)を買って入場。通常の大人観覧料は400円です。導入展示室では深川ゆかりの人物(松平定信、伊能忠敬他)と深川の歴史を紹介、常設展示室では江戸時代末期の深川佐賀町の町並みを実物大で再現しています。

江戸深川にタイムスリップ！ 1日の暮らしを音響と照明効果で演出しています。



左上は肥料問屋、右上は火の見やぐら、
左は水茶屋と米屋の蔵



企画展示室では「江戸のまんが」を開催。

開館は9時30分～17時。休館日は第2・
第4月曜日、年末年始、展示替え日等。

【芭蕉記念館】 江東区常盤 1-6-3 最寄駅 大江戸線 森下駅 A1

地上に出て、新大橋通りを新大橋方向に進み、新大橋の手前を左折すると右側に「芭蕉記念館」（写真下左）があります。俳聖 松尾芭蕉は1680年（延宝8年）江戸日本橋から深川の草庵に移り住み、この地を拠点に新しい俳諧活動を展開しました。松尾芭蕉ゆかりの地である江東区はその業績を顕彰するため、1981年（昭和56年）開館しました。写真下右は入口です。



3階常設展示室（写真下左）は松尾芭蕉について紹介、深川との関係、奥の細道

について展示、2階展示室（写真下右）では企画展「深川芭蕉庵一創作・交流・旅立—340年の時を越えて」（9月17日～2021年1月24日）を開催。



建物外の小さな日本庭園には「芭蕉庵」（写真下左）、記念館本館から隅田川沿いに約200メートル離れた別館の屋上が芭蕉庵史跡展望庭園で「芭蕉像」（写真下右）があります。いずれも無料で見られます。



開館は9時30分～17時。休館日は第2・第4月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月28日～1月1日）、展示替え日等です。寅次郎、共通入館券で入りましたが、通常の大人観覧料は200円です。

【田河水泡・のらくろ館】 江東区森下3-12-17 森下文化センター1階

最寄駅 大江戸線 森下駅A6

地上に出て左折、直進して右折、高橋のらくろード商店街を進むと右側に「森下文化センター」（写真左）があります。幼少期から青年期まで江東区で過ごした田河水泡（たがわすいほう）の漫画「のらくろ二等兵」をご存知ですか？



1931年（昭和6年）少年倶楽部で発表して爆発的な人気（11年間連載）を博した昭和初期を代表する漫画です。展示室内は撮影禁止で写真は入口までです。

1階展示室では田河水泡の仕事部屋、水泡の生涯、作品紹介の展示があります。漫画は身寄りのない野良犬「のらくろ」が猛犬連隊という犬の軍隊へ入隊し、活躍する物語です。寅次郎、展示を見て二等兵で入隊した「のらくろ」は徐々に階級を上げて、最終的には大尉まで昇進して除隊と知りました。また田河水泡の年表を見ると1934年（昭和9年）に「サザエさん」の作家 長谷川町子入門とあります。1998年（平成10年）ご遺族から寄贈された作品や書斎机などの遺品を中心に翌年に「田河水泡・のらくろ館」を開館しました。



開館は9時～21時。休館日は毎月第1・第3月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）です。

【石田波郷記念館】 江東区北砂5-1-7 砂町文化センター2階

最寄駅 新宿線 西大島駅からバス利用

地上に出て、西大島駅前から都営バス（都07・亀29）で北砂2丁目下車、進行方向に進み、大きな2本目の路地を左折、砂町銀座商店街に入り、進むと電柱に「砂町文化センター左折」と表示。左折すると右側に「砂町文化センター」（写真下左）があります。2階が「石田波郷記念館」です。



俳人 石田波郷（いしだはきょう）は1946年（昭和21年）から約12年間江東区に住み、当時の様子を多くの俳句に詠みました。戦後の俳壇を先導し、わが国の俳句文学に大きな功績を残しています。その功績と人間像、江東区とのかかわりを紹介・顕彰するため、江東区は2000年（平成12年）

12月に波郷自身が「第二の故郷」と呼んだ、この地に「石田波郷記念館」を開館しました。ご遺族から寄贈された遺品・作品を中心に展示紹介しています。

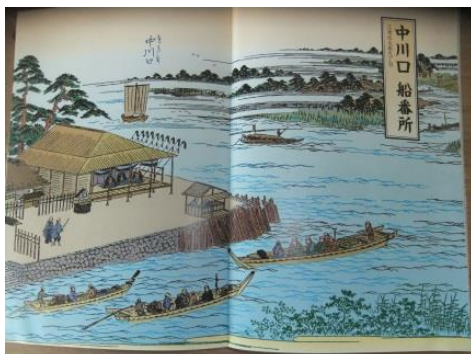
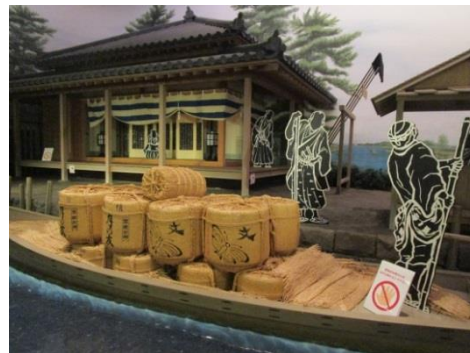


開館は 9 時～21 時。休館日は毎月第 1・第 3 月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始です。

【中川船番所資料館】 江東区大島 9-1-15

最寄駅 新宿線 東大島駅大島口

大島口(新宿寄り最後部)を下りると駅前の「わんさか広場」と旧中川・小名木川に囲まれた場所に「中川船番所資料館」(写真下左)があります。1590年(天正18年)江戸に城下町をつくることにした徳川家康は江戸への物資の輸送路として、小名木川を開きました。江戸に通じる最初の運河です。利根川をはじめ関東各地の河川が整備され、江戸の運河と繋がったため、モノや人の動きを抑えるため江戸幕府は1661年(寛文元年)この地に中川船番所(写真下右)を開きました。



2階は郷土の歴史・文化の紹介展示室、3階は常設・企画展示室で中川船番所の再現、水上交通の歴史、江戸の釣り文化の紹介があります。写真上右は旧中川(左)と小名木川(右)の分岐点で中川船番所があった場所から撮影しました。開館は9時30分～17時。休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12月29日～1月3日)です。寅次郎は共通入館券を使用しましたが、通常の大人の観覧料は200円です。

寅さん歩 165 東京にこんなところ-14 をご参照ください。

〔バーチャルウォーク途中経過〕

八柳修之さん作成のバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、10月25日、日本橋から51番目の太田宿に到着しました。太田宿は現在の岐阜市美濃加茂市に位置します。木曾川にかかる太田の渡しは中山道の難所のひとつだったそうです。

自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にもご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐり-30 です。

平野 寅次郎 拝